

2024年4月1日

第3期「新しい反復法ソルバー開発のための分科会」設立趣意

FrontISTR は構造物の、実用動的・線形・非線形構造解析の主要な基本機能を有している。種々の前処理アルゴリズムも選択可能であり、並列性能も高い。しかし、近年、3次元構造物の構造解析は、リスク評価や余寿命評価に用いられることが多く、より一層の計算効率求められる。特に動的解析長時間の計算が必要なため、FrontISTR をもってしても、さらに高いパフォーマンスが望まれる。

本分野別分科会では、2022年から2024年度までの、「新しい反復法ソルバー開発のための分科会(第2期)」では、線形問題において大きな高速化が達成できた、

2024年度から2026年度までの2年間では、大規模複雑構造物の耐震性評価・リスク評価に用いるため、改良されたFrontISTRを非線形問題への適用、特に実用問題としては、地盤断層問題などを扱う計画である。